

市の考えを問う 一般質問

12月9日・10日・13日の3日間行われた一般質問の主な質問（Q）と答弁（A）の概要を掲載します。



Q

鶴ヶ島市の教育について

A

将来を見据えた教育を推進する

齊藤 芳久 議員

宮崎 弘子 議員

自転車を生かしたまちづくりを

Q

安全・快適な道路を目指す

A

質問一 まちづくり政策における自転車の位置付けについて。

二 自転車走行空間の整備について。

ア これまでの整備状況は。

イ 今後の整備計画は。

三 本市の自転車事故の発生状況について。

答弁一（市長） 第5次鶴ヶ島市総合計画前期基本計画の中で、自転車通行帯や歩道整備を位置付ける予定である。

二ア 富士見地内市道652号線570㍎、藤金外2地内の市道547-1号線1790㍎を整備した。

イ 都市計画道路等を利用して市内主要施設を機能的に結べるよう進めていきたい。また、共栄一本松線の若葉駅西口から関越自動車道下までの810㍎に自転車通行帯の設置を計画している。

平成22年11月末現在115件で、前年度比15割増。死者は1人。65歳以上の高齢者が関わる事故が26件、中学生以下は21件。特に交差点での事故が91件と大半を占めている。

◎その他の質問

一 大谷川雨水幹線整備は必要か

二 第5次鶴ヶ島市総合計画前期基本計画の策定に向けて

本市の目指す教育とは。

教育の現状は。

教育施設について。

教育予算について。

市長として鶴ヶ島の教育に思うのは。

答弁一（教育委員長） 本市の目指す具体的な教育は、鶴ヶ島型の一貫教育、市民性を育てる教育の推進、育て合う教職員の育成である。

り、将来をしっかりと見据えて、鶴ヶ島の教育を充実していく。

各学校は、確かな学力、豊かな人間性、健やかな体のバランスを重視し、地域ぐるみで魅力ある学校づくりを推進している。

校舎の耐震化は昨年度終了し、今後大規模災害時の避難場所となる体育館の耐震補強工事を優先に取り組んでいく。猛暑対策の空調設備導入を耐震化と並行して行うことは、予算的に難しいと考える。

財政状況が厳しい中であるが、学力向上をはじめとする様々な課題解決の施策を効果的に実施できるように、予算確保に努めていく。

五（市長） 理想とする教育を一言で言うとは、どのような道に進んでも通用する子を育てる教育である。基礎学力の定着と確かな生活力を育んでいくことが義務教育に課せられた使命であると考える。

